

下横屋遺跡発掘調査報告書

(藤井町南下條字水無404-1, 405-1番外地点)
一宅地分譲事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

2023年3月

韮崎市教育委員会
積水ハウス株式会社 山梨支店

下横屋遺跡発掘調査報告書

(藤井町南下條字水無404-1, 405-1番外地点)
一宅地分譲事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

2023年3月

韮崎市教育委員会
積水ハウス株式会社 山梨支店

序 文

韮崎市は武田発祥の地であり、武田氏ゆかりの史跡が数多く残っております。武田氏最後の城である史跡新府城跡、甲斐武田家の祖武田信義が元服したと伝えられる武田八幡神社本殿、願成寺の重要文化財の木造阿弥陀如来坐像、信義の要害と伝えられる史跡白山城跡や信玄の治水思想を伝えるとされる史跡御勅使川旧堤防（将棋頭）など、挙げ始めれば枚挙に暇のないほどであります。

本報告書の下横屋遺跡（藤井町南下條字水無 404-1, 405-1 番地点）は、藤井町南下條字水無に所在します。本遺跡が所在する地域は、通称藤井平と呼ばれ江戸時代には「藤井平五千石」と称されるほどの山梨県内有数の穀蔵地帯でした。そして古来よりこの肥沃な土地を背景に、先人たちが生活を営んでいた痕跡が発掘調査によって数多く確認されてきました。

本遺跡においても、個人住宅の建設や道路新設工事等によって過去7地点の発掘調査が実施されてきました。主に弥生～古代までの幅広い時代の調査結果を得ております。

今回の調査においても、古代の遺構などが検出されました。調査地は終了後に、道となりましたが、事業者をはじめとする関係者のご理解とご協力のなかで、記録保存され、本報告書の刊行となりました。

事業者を初めとする関係者の方々へ改めて感謝を申し上げます。

令和5年3月31日

韮崎市教育委員会教育長

教育長 堀 川 薫

例 言

1. 本書は韮崎市藤井町の宅地分譲に伴う下横屋遺跡（藤井町南下條字水無 404-1, 405-1 番外地点）の発掘調査報告書です。
2. 発掘調査および整理作業は、積水ハウス株式会社山梨支店から調査に関する委託を受けた韮崎市教育委員会が行いました。
3. 本書の編集・執筆は半澤直史が担当した。
4. 整理作業および本報告書の作成は、韮崎市教育委員会が実施しました。
5. 発掘調査業務の内、基準点測量業務を、(株)テクノプランニングに委託をして行いました。
6. 本書に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会において保管されています。
7. 調査組織
調査主体
 韮崎市教育委員会
調査担当
 半澤直史（韮崎市教育委員会）
 韮崎市教育委員会
 教育長 堀川 薫，課長 佐藤道平
文化財担当 関間俊明，渋谷賢太郎
 半澤直史
8. 調査を進めるにあたり、次の方々から協力を得ました。
調査関係者（順不同，敬称略）
 原 義仁，小幡敬一，中村哲夫，土屋二郎，
 石原ひろみ，土屋啓子，深沢真知子
最後に、発掘調査・整理作業・報告書刊行に尽力をいただきました方々、調査にご理解を下さいました地元住民の方々、事業の関係者各位に御礼申し上げます。

凡 例

1. 報告に関わる名称については以下の通り記載する。

調査区	調査区	—	C H
遺 構	溝状遺構	—	M Z
	土 坑	—	S D
	ピット	—	P T

2. 遺構・遺物・セクションの実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺 構	溝状遺構	—	1/120
	土 坑	—	1/20
	ピット	—	1/20, 1/60
遺 物	土 器	—	1/2

目 次

序 文

例 言

凡 例

本文目次

第1章 序 説

- 第1節 調査経緯と経過
- 第2節 遺跡の地理的環境
- 第3節 遺跡の歴史的環境

第2章 調査方法と基本層序

- 第1節 調査方法
- 第2節 基本層序

第3章 出土した遺構と遺物

- 第1節 遺構
- 第2節 出土遺物

第4章 まとめ

図版目次

- 第1図 下横屋遺跡調査位置図（1/50,000）
- 第2図 下横屋遺跡調査位置図（1/5,000）
- 第3図 下横屋遺跡完掘状況図（1/160）
- 第4図 下横屋遺跡調査区内土壌堆積状況図（1）（1/40）
- 第5図 下横屋遺跡調査区内土壌堆積状況図（2）（1/40）
- 第6図 出土遺物（1/2）

写真資料

抄録

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯

周知の埋蔵文化財包蔵地である下横屋遺跡地内（藤井町南下條字水無 404-1, 405-1 番外地点）で宅地分譲事業があり、積水ハウス株式会社 山梨支店から文化財保護法第 94 条に関わる届出が韮崎市教育委員会（以下市教委）へ提出された。市教委では、計画予定地が埋蔵文化財包蔵地であり、本遺跡及び隣接する遺跡から数多くの埋蔵文化財が確認されていることから、宅地分譲地内において試掘調査の必要がある意見を付して山梨県観光文化部 文化振興・文化財課（以下山梨県）に經由進達を行った。

後日、山梨県から試掘調査の指示が出され、試掘調査の結果、事業計画地内で遺構・遺物が検出された。調査後に事業者と協議を行い、道路新設箇所であることから、現地保存不可能であるとの協議結果となった。

これらの試掘調査結果から、現地保存不可能な箇所のみ記録保存を目的とした発掘調査を韮崎市教育委員会を実施することとなった。

第2節 遺跡の立地と環境

韮崎市は、山梨県の北西部に位置している。市内周囲は、北に八ヶ岳、西に鳳凰三山、東に茅ヶ岳と三方を山に囲まれている。また市内中心部を横断するように七里岩台地があり、台地の西には釜無川、東に塩川という二大河川が流れている。東西にやや長い市域は、河川の開析などによって複雑な様相を呈しており、大きく釜無川右岸・七里岩台地・藤井平・塩川左岸の 4 つの地域に分けることができる。

本調査対象地の下横屋遺跡（藤井町南下條字水無 404-1, 405-1 番外地点）は、韮崎市藤井町字水無に所在し、4 つの地域の藤井平の地域に位置する。この地域は西側に七里岩台地、東側に塩川に挟まれた塩川右岸の低位河岸段丘上に位置する。

藤井平というのは、江戸時代から見られるこの地域一帯の通称のことである。

下横屋遺跡は、これまで多くの発掘調査が行われている遺跡であり、本調査地点は、西側に黒沢

川が流れる住宅地内の中にある。この遺跡は、縄文時代から奈良・平安時代まで幅広い時期の遺構・遺物が確認されており、特に弥生～平安時代の調査結果を多く残している遺跡である。

第2章 調査方針と基本層序

第1節 調査方法

工事設計図面から調査範囲を設定したのち、重機を使用して遺物包含層まで表土剥ぎを行い、その後移植ゴテ等を使用して人力で遺構確認を行った。確認された遺構は、構築年代が新しいものから順次行うように努めたが、新旧関係不明な遺構等については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係を把握した。

土坑・ピットは、半裁して堆積状況を確認した後、完掘状況を行った。遺構はセクションベルトを設定し、適時層序観察を行いながら堆積状況を確認した。

検出した遺構は、遺構内外問わず原位置がある程度わかるものは、光波測量機器を使用して個別に取り上げた。

遺構の実測においては、基準点を設置し、国家座標を付け、トータルステーションや空撮による測量を実施した。

調査区及び遺構の図版は、その成果と市教委の測量成果を元に作成している。写真撮影についてはデジタルカメラを使用し、調査状況・遺構・遺物出土状況・完掘状況等の撮影を適宜行った。

第2節 基本層序

下横屋遺跡は、藤井平と呼ばれる塩川と七里岩台地の間にある低位の河岸段丘にある。基本層序は、最も土層観察に適していた、調査区南壁セクションに設置した。

層序は上位から下位にⅠa 褐灰色土層（耕作土）1b 黄橙色土層（耕作土床土）Ⅱa 灰白色土層（旧耕作土）、Ⅱb 黄橙色土層（旧耕作土床土）、Ⅲa 明黄褐色土層（旧耕作土）、Ⅲb 黄橙色土層（旧耕作土床土）、Ⅳ明黄褐色土層（鉄分堆積土）、Ⅴa 暗褐土層（遺物包含層）、Ⅴb 黒褐色土層（遺物包含層）、Ⅴc 黒褐色土層（遺物包含層）、Ⅵ黄褐色土

層（地山面）、に分けられる。これらの層序は概ねであるが、本調査区域では基本的にこの層序で共通している。

第3章 出土した遺構と遺物

第1節 遺構

1号溝状遺構（MZ 1）

調査区の西端から検出した。遺構の検出面はVb層であり、覆土は灰黄褐色の単層であり、粘土質であった。しまりは弱く、粘性は強い。溝は北から南にかけて流れており、南側に緩やかに傾斜している。遺構内からは遺物が出土しなかった。遺構の底はこぶし大程の石が混ざっていて、地山面は鉄分が全体的に混ざっていた。河川等の流路であった可能性がある。

一号土坑（SD 1）

調査区西側で検出した。遺構の確認面はVb層で、覆土は黒褐色の単層であり、遺構の北側は調査区外のため南側半分の検出となった。遺構の周辺は砂利や小石の流れ込みによって確認面が乱されていた。遺構の覆土にも砂利や小石が多量に混ざっていた。

1号ピット（PT 1）

調査区中央よりやや南西で検出した。ピット両側は、砂利の流れ込みによるかく乱によって確認面が乱されていることから、周辺との関係は不明である。ピットの中から遺物は確認出来なかった。

2号溝状遺構（MZ 2）

調査区の中央から検出した。東西幅約5mで、深さは約15cmの溝状遺構である。なだらかな傾斜で南側に向かって流れている。断面は皿状であるが、底は凸凹している。

遺構としての性格は、人工的な溝というよりも自然の流路の可能性が高いと考えられる。遺構の中からは、遺物は確認出来なかった。

3号溝状遺構（MZ 3）

調査区の東側から検出した。東西幅約3mで、

深さは約50cmの溝状遺構である。なだらかな傾斜で南側に向かって流れている。皿状の形状をしているが、凸凹しており、底を挟りながら流れている。遺構の中から土器片が6点検出された。遺構の状態から自然流路の可能性が高く、出土遺物も流れ込みと考えられる。

2号土坑（SD 2）

調査区東端から検出した。遺構の確認面はVb層で、覆土は黒褐色の単層であり、南側は調査区外のため北側半分の検出となった。東西幅約2mで、深さは約25cmで、遺構内から遺物は確認されていない。

道路拡張箇所

道路拡張箇所の調査については、調査区内が方形区画状の地割をしていたことから、中世の方形居館跡が存在する可能性が想定されたため、確認調査を行った。しかし、本調査では堀等の遺構は確認出来なかった。

第2節 出土遺物

調査区内から、主に縄文時代と古墳時代の遺物が検出された。縄文時代の遺物は口縁部に輪積痕の後があり、その下に指などによる凹みが確認出来る。また胴部に培頭痕が若干見られる。時代は縄文時代晩期の物と考えられる。

古墳時代の遺物は、3号溝（MZ 3）から検出された。口縁部は失われているが、S字襷D類相当の物の頸部で、外部にはハケ目痕が見られる。時代は古墳時代前期と考えられる。

ま と め

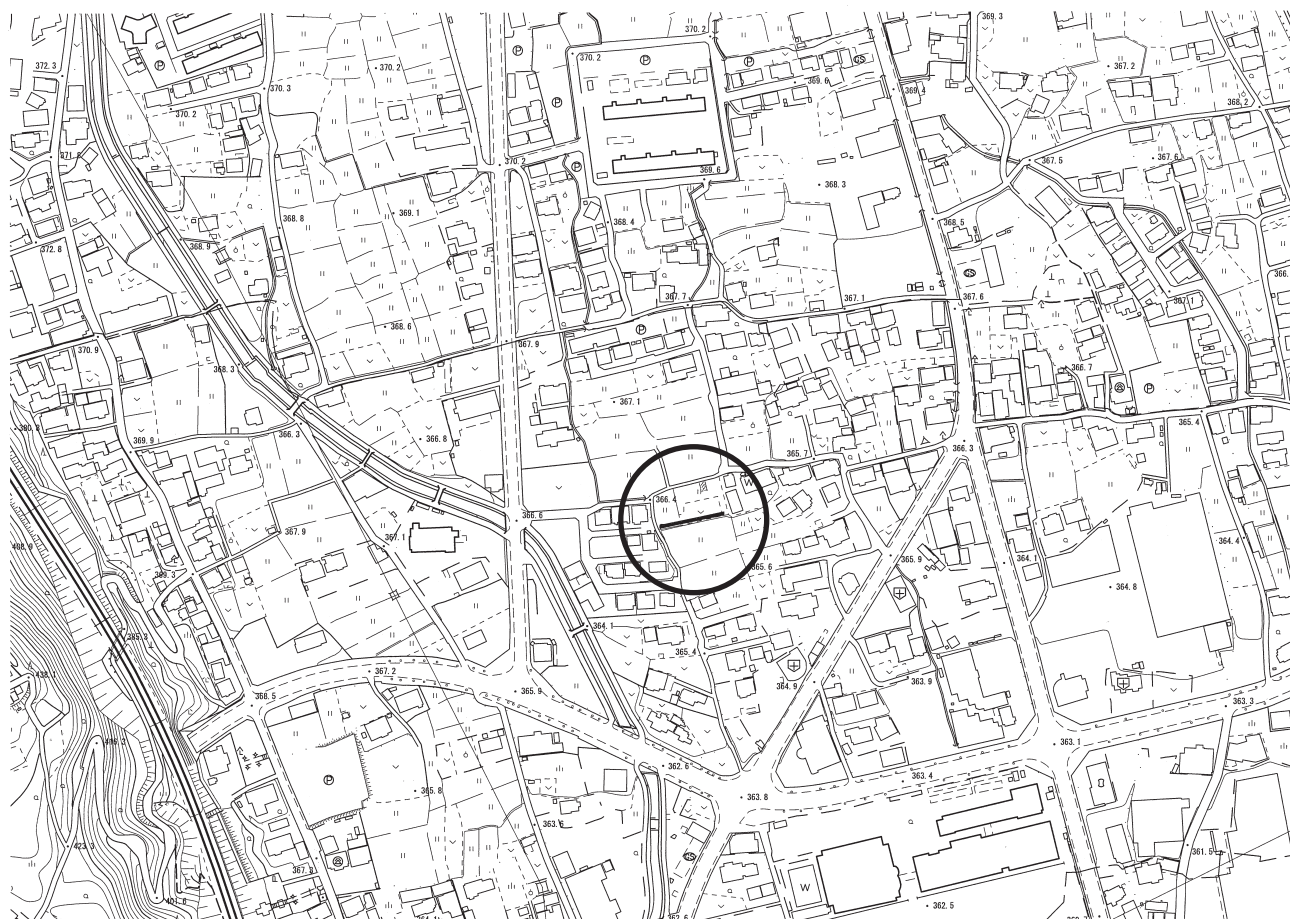
今回の発掘調査では、3条の溝状の遺構が検出された。調査面積が約286㎡と狭小であったことから、全容を解明することは出来なかった。しかしながら、遺構の様子から流水路の可能性が高いと推測される。また出土遺物が縄文時代と古墳時代の遺物であることから、古墳時代以降には、流路としての役割を終えていた可能性が考えられる。

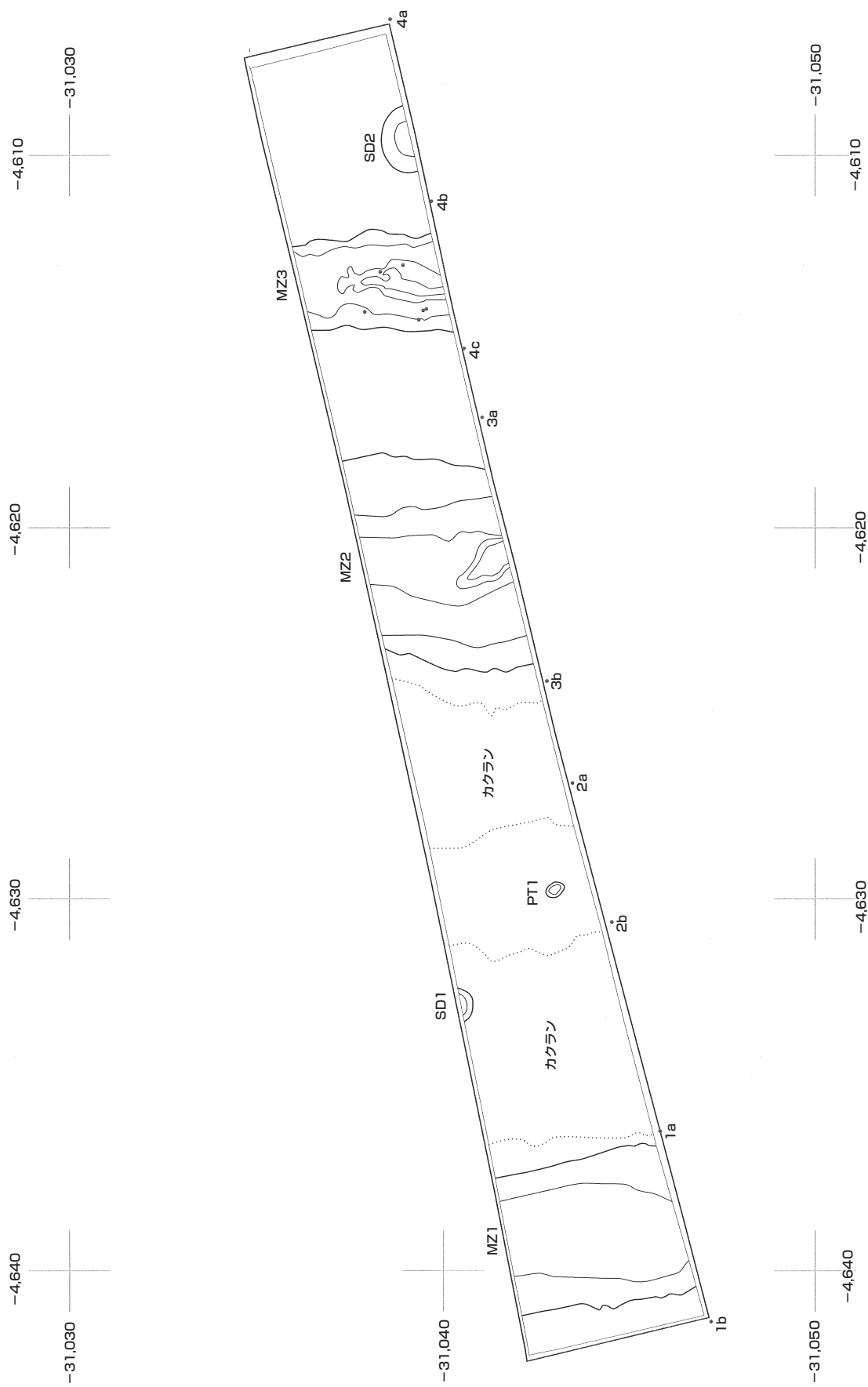
近年、水害の問題等で水に関わる歴史は注目さ

れることが多く、水に関わる史跡や遺跡関係は重要視されるようになってきている。

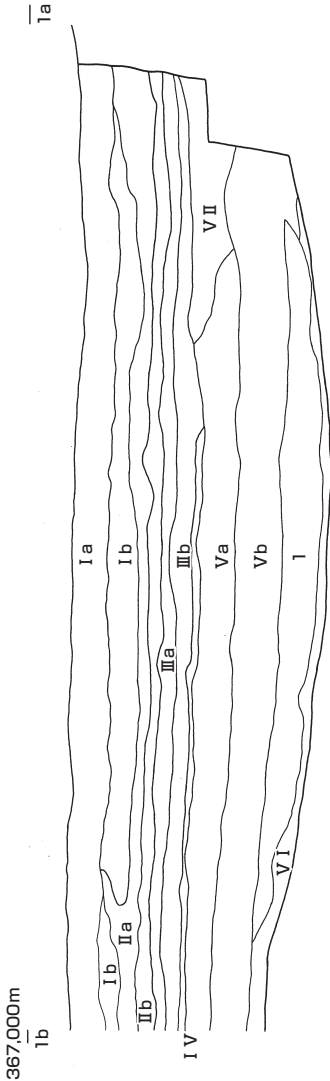
上記のような文化財も重要であるが、本調査で確認された流路などもこの地域の水の利用を調査する上でも重要な結果といえる。

本報告書は、限られた時間の中で作成したものであり、出土した遺構・遺物を資料化したに過ぎないが、今後の調査・研究に活用されれば幸いである。

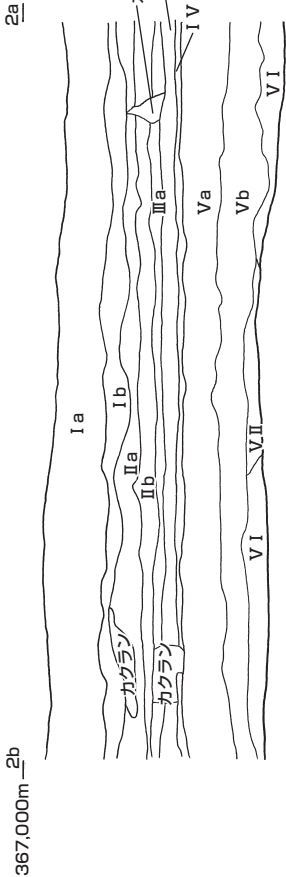




第3図 下横屋遺跡 完掘状況図 (S=1/160)

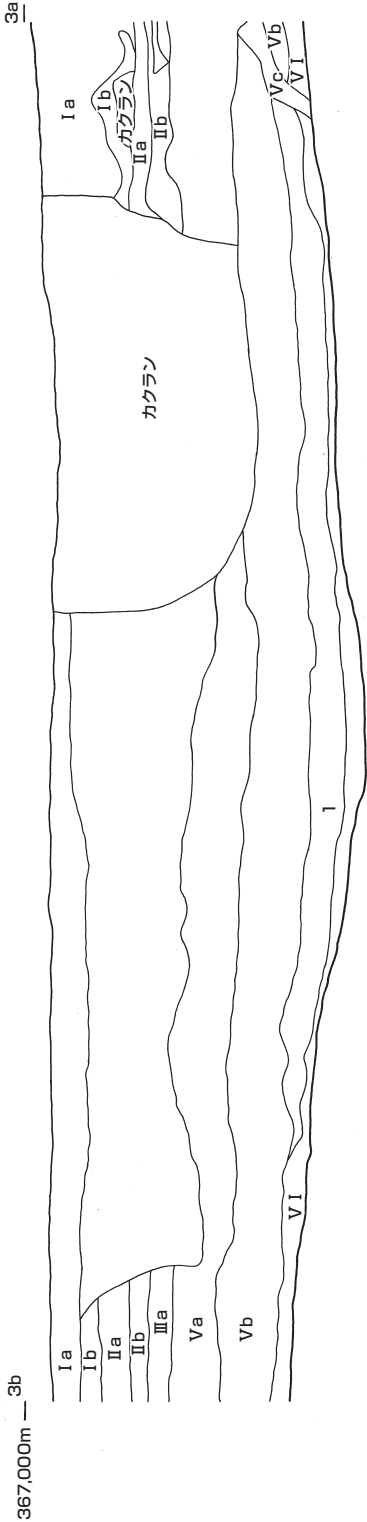


土層説明 (基本層序)		
層位No.	説	明
I a	褐灰色土層 10TR6/1, 耕作土, しまり強, 粘性無	
I b	にぶい黄橙色土層 10TR7/3, 耕作土床土, しまり強, 粘性無, 少量であるが鉄分が全体に含まれる	
II a	灰白色土層 10TR7/1, 旧耕作土, しまり強, 粘性有, 粘土質	
II b	にぶい黄橙色土層 10TR7/4, 旧耕作土床土, しまり強, 粘性やや強, 鉄分が全体に含まれる	
III a	明黄褐色土層 10TR6/6, 旧耕作土, しまり弱, 粘性強, 粘土質	
III b	にぶい黄橙色土層 10TR7/4, 旧耕作土, しまり強, 粘性やや強, 鉄分が全体に含まれる	
IV	明黄褐色土層 10TR6/8, しまり強, 粘性弱, 鉄分層	
V a	暗褐色土層 10TR3/3, しまり弱, 粘性弱, 砂質, 包含層	
V b	黒褐色土層 10TR2/3, しまり弱, 粘性弱, 粘土質, 包含層	
V c	黒褐色土層 10TR2/3, しまり弱, 粘性弱, 鉄分多量	
VI	黄褐色土層 10TR5/8, しまり強, 粘性無, 砂質, 地山面	
VII	灰白色土層 10TR7/1, しまり強, 粘性無, 砂質	

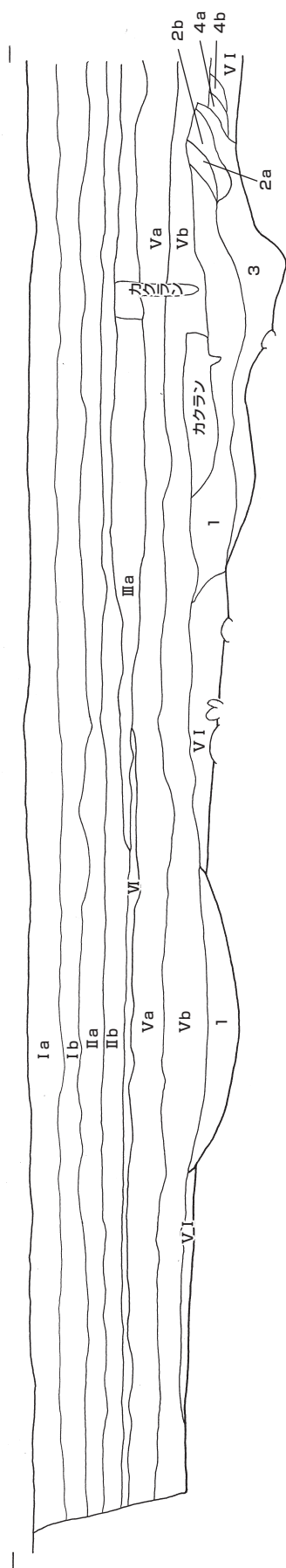


土層説明 (1号溝状遺構, 2号溝状遺構, 2号土坑)		
層位No.	説	明
I	灰黄褐 10TR4/2, しまり弱, 粘性弱, 粘土質	

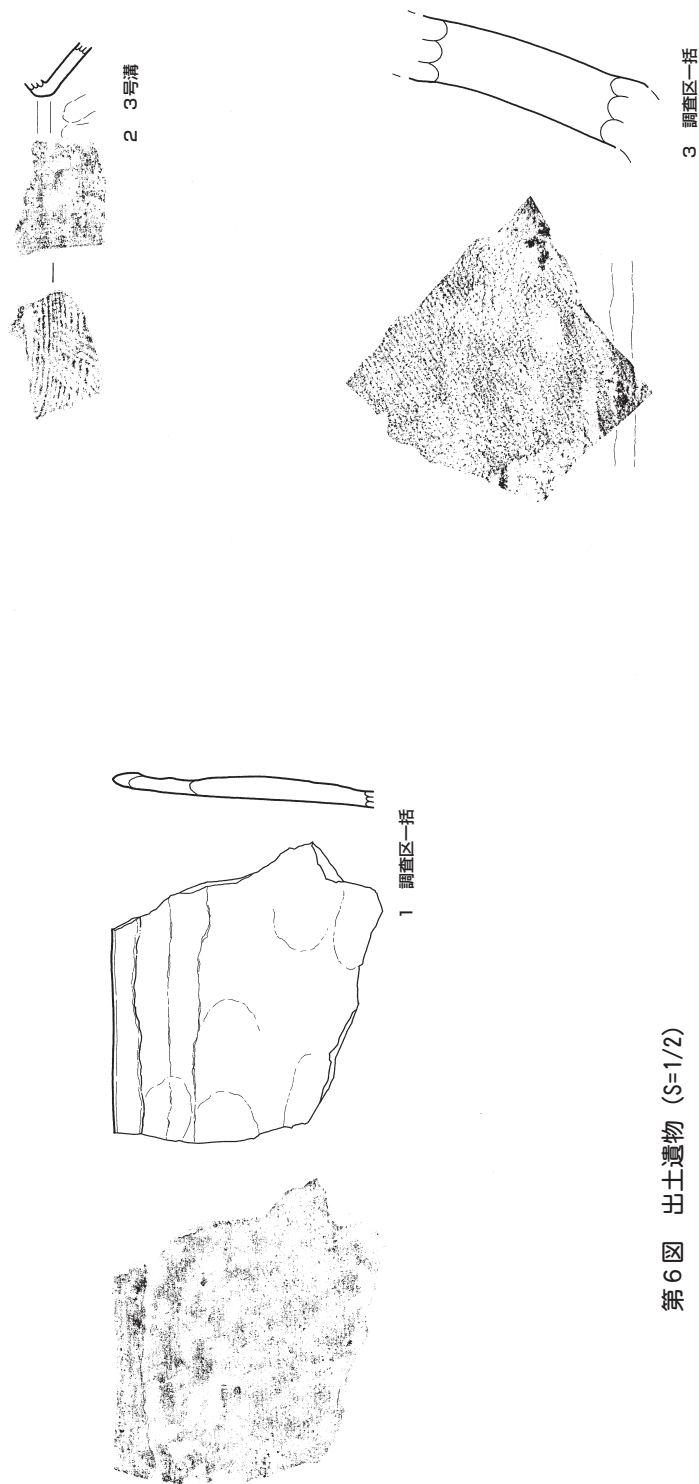
土層説明 (3号溝状遺構)		
層位No.	説	明
1	黒褐 10TR3/2, しまり弱, 粘性弱, 鉄分微量	
2 a	黒褐 10TR3/2, しまり弱, 粘性弱, 鉄分多量	
2 b	黒褐 10TR3/2, しまり弱, 粘性弱, 鉄分微量, 砂利多量	
3	黄褐 10TR5/8, しまり強, 粘性弱, 砂質, 砂利多量	
4 a	褐灰 10TR5/1, しまり弱, 粘性弱, 砂質, 砂利多量	
4 b	褐灰 10TR4/1, しまり弱, 粘性弱, 砂質, 砂利多量	



第4図 下横屋遺跡 調査区内土壌堆積状況図 (1) (S=1/40)



第5図 下横屋遺跡 調査区内土壌堆積状況図 (2) (S=1/40)



第6図 出土遺物 (S=1/2)

写真資料 1



調査区全景



調査区東側土層堆積状況



1号溝状遺構（MZ 1）完掘状況

写真資料 2



2号溝状遺構 (MZ 2) 完掘状況



3号溝状遺構 (MZ 3) 完掘状況



1号土坑 (SD 1) 完掘状況

写真資料3



道路拡張箇所 調査状況



調査状況



出土遺物

報告書抄録

ふ り が な	しもよこやいせきはくつちょうさほうこくしょ
書 名	下横屋遺跡(藤井町南下條字水無404-1,405-1番外地点)発掘調査報告書
副 書 名	宅地分譲事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 著 者 名	半澤直史
編 集 機 関	韮崎市教育委員会
住 所	〒 407-8501 山梨県韮崎市水神1-3-1
発 行 年 月 日	令和5年3月31日
ふ り が な	しもよこやいせき
所 収 遺 跡 名	下横屋遺跡
所 在 地	山梨県藤井町南下條字水無404-1,405-1番外
市 町 村コード	19207
遺跡番号コード	F-42
調 査 期 間	令和3年8月～令和5年3月
調 査 面 積	286 m ²
調 査 原 因	宅地分譲事業
種 別	集落跡
主 な 時 代	縄文時代・古墳時代
主 な 遺 構	溝状遺構
主 な 遺 物	土師器
特 記 事 項	

下横屋遺跡発掘調査報告書

(藤井町南下條字水無404-1,405-1番外地点)
—宅地分譲事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 2023年3月31日

発 行 韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神一丁目3-1
TEL 0551-22-1111 (代表)

印 刷 有限会社 タクト
